

いきいきとした町づくりをめざして

議会だより

ガウラ

No. 54

2011.1.30発行

完成間近の「道の駅」—— ②

特集 あなたの声！

TPPでどうなる ③

議会改革への第一歩 ④

22路線、町道認定 ⑤

武道館について激論 ⑥

一問一答で活発な討論

⑦ ▶ ⑮

心も体もほかほか！ ⑯

完成間近の「道の駅」 情報館備品購入費に800万円

12月定例会

進む中角通学路改良工事

一般会計補正予算
1億1080万円を可決

十二月定例会は八日から十七日までの十日間開かれ、二十二年度一般会計や特別会計の補正予算、勝浦町道路線の認定などについて審議、また、専決処分の「特別職と職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」についても審議し、全員一致で可決しました。
また、一般質問では全員が登壇し、町の考えを問い町政全般にわたり鋭い指摘をしました。

補正予算の主なもの

- 農林水産費 3,095万円
(林道立川相生線改良工事等)
- 商工費 2,069万円
(情報館備品代および関連工事等)
- 土木費 4,150万円
(横瀬古川橋改修工事、中角歩道関連工事等)
- 教育費 1,353万円
(中学校仮設校舎設計委託料等)

問

年間約二百万円である。

情報館、トイレ等、県からの管理委託料は。

答

「道の駅」は三月にオープンするので、トイレ用品等の需用費は三月分に限って町の負担とする。県との管理委託契約は四月からスタートする。

問

情報館の需用費が計上されているが本来、県の管理委託料から充当すべきではないのか。

議案に対する主な質疑



通学路の安全確保に向けて

特集

あなたの声！

TPP (ていぴーぴー) でどうなる!?

■ 昨年の10月、国の「新成長戦略実現会議」で官首相がTPPへの参加検討を表明し、その後の閣議で関係国との協議を開始することが決定された。

■ TPPは環太平洋関連国との協定を結ぶことで、関税を撤廃し貿易自由化をめざす経済的枠組みづくりであり、このことで農林業は壊滅的打撃を受けると反発の声も上がっている。

■ そこで議会広報委員会では、町内の農商工関係者の声を聞いてみました。

あなたのコメント

ナカテツ徳島工場



工場長 置田克巳さん

自動車関連の会社としては、市場が広がることでは良いことだが、町の基幹産業の農業のことを思うと手放しでは喜べない。

みかん栽培農家



高田敏幸さん

みかん栽培で生計を立てており、TPPに参加すると経営が成り立たない。絶対反対である。まず、農業保護・支援策に取り組むべきだ。

施設園芸農家



米沢好延さん

関税撤廃で安い農産物の輸入が増えれば、農業は崩壊する。農家への補償も確立されておらず、食料自給率向上に合い反する政策で反対である。

消費者として



芳野陽子さん

TPP参加で安い商品が手に入り、消費者にとっては選択肢が広がりが嬉しいことです。しかし、労働市場に安い人件費の人々が参入し悪影響を受けない対策をするなど条件付きで賛成です。

小売業として



谷尻美智子さん

賛成です。今、日本は不景気で商売が成り立たない。関税が掛からなくなると輸出が増え景気が回復し、所得が増えます。

町としては、基幹産業が農業であることから、全国町村会で「TPP反対決議」。議会においては「TPPへの参加について慎重な対応を求める意見書」をそれぞれ国に提出している。

9月定例会において総務産建常任委員会に付託されていた、平成21年度各会計決算について委員長から「特に留意すべき事項」を付けて認定すべきと報告があり、全員一致で認定した。

※特に留意すべき事項

勝浦病院

- 地域医療の役割を果たすため、医療従事者の確保及び計画的な施設改善を。

総務課

- 決算全般にわたって不要額がめだつ。原因を精査し対応を。
- 町税等徴収に対しては、引き続き積極的な徴収を。
- I P電話の活用を広く周知を。

産業建設課

- 事業執行の遅れが見受けられる。組織の再編を含め体制の充実を。
- 簡易水道特別会計において、一部不適切な会計処理が見受けられた。今後このようなことがないよう適切な処理を。

住民課

- 住宅使用料及び住宅新築資金等貸付金の未収金の徴収については、法的措置も含め引き続き努力を。
- 農業集落排水施設については、地元体制の構築を図り未収金の対応を。
- 選挙投票所の再編の検討を。

福祉課

- 保健・医療・福祉の連携を図る組織の整備を。
- 隣保館事業の今後の方針検討を。

教育委員会

- 勝浦中学校改築に向けて、執行体制に万全を。



議会改革への第一歩

〈活発な討論〉

勝浦町議会では、議会活性化のために定例会での議論がより活発になるように質問形式の改革を行っている。

対面式に変更

一般質問を行う時、執行部を背にして行うのでは不自然なので、昨年六月定例会から対面して行う形式に変更した。対面式にすることで相手の目を見て討論できるので、緊張感を持って質問できるようになった。

一問一答方式の採用

これまでの質問方式は全ての質問を一括して行い、再々問までしかできなかったが、九月定例会から一問一答方式でも可能とした。この方式では掘り下げた討論ができるようになり、傍聴者にも分かりやすくなった。

―年頭にあたって―



議長 川端 雅夫

新年あけましておめでとございます。今年の二月末には「道の駅」情報館が完成。沼江バイパスは二十三年度末には開通し、今後、勝浦中学校改築の大事業を控えている。厳しい財政状況であるが、議員として住民生活の安全・安心を基本に職務に精励して行きたい。今年もよろしくお願いたします。

勝浦町議会

総務産建常任委員会

十二月定例会に向けての委員会を十一月二十九日に開催し、補正予算や町道認定、「定住自立圏形成協定の議決に関する条例」などを審議しました。

畑総関係の町道

二十二路線を認定

協議不十分で九月定例会の提案を見送っていた畑総関係の町道二十二路線。土地改良区や県とも協議が終了したので、定例会に提案することを承認した。

人事院勧告どおり

職員給与とカット

勝浦町は早くから行財政改革に取り組み、職員の大規模削減など、独自の給与カットを実施してきた。相次ぐ給与カットは職員の士気に影響しないかなど再三委員会を開き協議してきたが、十一月二十二日開催の委員会において、社会全体の厳しい現状や住民感情などを考慮して、人事院勧告どおり職員給与のカット実施することを承認した。

● 定住自立圏形成協定とは

徳島市を中心に十二の市町村が生活機能強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化に係る取り組みなどがある。



町道認定される今山総畑農道

文教厚生常任委員会

11月24日に委員会を開催し、一般会計および特別会計の補正予算について審議しました。

一般会計

選挙用備品購入

4月の統一地方選挙に向けて投票用紙の自動交付機を3台購入。

投票用紙の二重渡しの防止や男女別の交付枚数、残数が瞬時に分かるメリットがある。

ケイフレンズのNPO法人化に向け1人を採用

ケイフレンズが自立した団体として運営を行うため、規約などの策定や課題を調査するために、国の補助金を受けて1年間の予定で1人の臨時職員を採用する。

1,500万円の補正

国民健康保険特別会計では、退職被保険者の療養給付費や高額療養費の増加に対応するため、補正予算を計上することを承認した。



効率化が期待される選挙用備品

配食増に対応

介護保険特別会計では、配食サービスを受ける人の増加が予想されるので、144万円の補正を計上することを承認した。



防災シリーズ

一斉防災訓練に参加して

掛谷自主防災隊

今世紀前半に発生する可能性が高いと言われている南海・東南海地震をはじめ台風水害等に備え、掛谷地区も平成二十年九月一日に自主防災隊を結成し、区の役員および消防団員・OBが中心となり活動しております。

九月五日に町一斉防災訓練に子供・大人総勢五十一名が参加、第九分団員の協力を得、初期消火訓練等を実施しました。



町も地震・防災対策としてケーブル線によるハード・ソフト面の拡充、火災探知機の義務付け、家具の固定器具の取り付け推進など周知しており、区民の防災意識が高まりました。(隊長 田中勇次)

勝浦中学校改築調査特別委員会

十月二十七日

基本設計の説明を受ける

設計業者から、校舎の基本設計について概要説明を受けた。

外観の基本コンセプトは周辺環境と調和し、勝浦町のシンボルとなるデザインになっている。

校舎は二階建てで、生徒の安全性を考慮した施設づくりと、人にやさしいユニバーサルデザインを採用している。

十一月二日

武道館の可否について議論

平成二十四年から武道およびダンスが必修科目になるが、その授業のために武道館が必要なのかどうか。財政的な面から「体育館」や「多目的スペース」を利用すれば、十分に対応できるのではないかななどの意見が出されたが、社会教育施設として有効活用できるとして建設することになった。

十一月二十四日

専門員の配置を急げ

今後、校舎建設に向けていろいろな課題が出てくるが、計画通りに進めるために豊富な経験を持つ専門員が必要。町は四月からの派遣を予定しているが、それでは間に合わない急ぐべきである。

(完成イメージ図)



お年寄りが 安心して外出できる サービスを

サ―ビスを

計画の見直しを検討（町長）

国清 一 治議員



問

町の老人福祉計画には、お年寄りが安心して長寿を迎え、生活を送るための課題と対策が十分に組まれていない。

特に、買い物や病院・役場などに行く車もバスもない「交通弱者」が安心して外出できず、家にこもるお年寄りが増えている。また、介護保険料を払っ

答 町長

「交通弱者」や「施設入所

待機者」の対策には、高齢者向け住宅などが重要な課題である。今年度の計画見直しの中で検討し、お年寄りが安全で安心して暮らせる町にしたい。

「ホシカミキリムシ」 買上げを 新年度に予算化検討（町長）

問

最近、農業の町単補助事業の利用者が少なく、申請が全くない事業を見直すべきである。現在進めているみかん改

植事業の幼木に害虫ホシカミキリムシの被害が増えている。

「害虫買上げ事業」や、みかん園の「防風ネット整備事業」などを新規に加えてはどうか。

答 町長

「害虫買上げ事業」や「防風ネット整備事業」など新年度に予算化できるように検討したい。



「ホシカミキリムシ」

タイムリミットは三月

坂本・防火水槽

問

九月の定例会で「坂本黄檗の防火水槽」の質問に、九月入札・着工で工期は三ヵ月と答弁し、本来なら完成していないければならないが、今なお着手していない。どうなっているのか。

答 総務税務課長

工事予定地の耕作物の関係で遅れている。

問

地元にとって防災の安全・安心面から強く要望が出され一年以上前に予算化されている。三月に完成しないと再度予算が流れる。

答 町長

地元で大変迷惑をかけている。早期に完成したい。



やっと工事が始まった坂本防火水槽

勝浦病院

透析治療実現を

病院関係者と十分協議（町長）

節 公一議員



問 近年、透析治療を必要とする患者が増えており、今後も糖尿病の進行による増加が予想される。

また、経営コンサルタントからも勝浦病院での透析治療導入の必要性が提言されている。
医師の確保という課題はあるが、患者の要望にこた

えるために、指定管理者制度の活用などを含め実現に向けて取り組みむべきでは。

答 町長 透析治療を行うには施設整備と人的配置に大変厳しい面があるが、病院関係者と十分協議して行きたい。

指定管理者制度は那賀町が実施していて理想的な形で運営されているが、勝浦町で取り入れるのは容易ではない。

国の補正予算

町の対応は

問 緊急経済対策として、円高・デフレ回

避のため約五兆九百億円の補正予算が成立した。雇用促進や地域支援が柱となっており、迅速な対応が必要であるが、勝浦町にどのくらい配分されるのか。

また、雇用対策や地域活性化事業の具体的なメニューはできているのか。

答 総務税務課長 地方交付税として四千二百万円交付される予定である。

経済対策として「きめ細やかな交付金」が約五千万円、「住民生活に光をそぐ交付金」約一千万円などが見込まれている。

雇用対策事業としては、新卒者の就職支援や企業の雇用維持があり、現在取りまとめているが、まだ具体的にはできていない。

答 産業建設課長

社会資本整備事業として、農村環境改善センター裏の古川橋の補修、生名地区の町道平野線舗装工事を予定している。

前川キャンプ場

施設の整備を

来年度予算化したい
(産業建設課長)

問

毎年、多くの人が前川キャンプ場を利用し、管理人の対応の良さや行き届いた手入れ、景観のすばらしさなどに非常に人気が高いが、施設の不備が目立つようになってきた。今後、「道の駅」完成に



白線が必要な駐車場



傷みがひどいバーベキュー設備



合わせ、町の魅力づくりのため観光スポットとして整備すべきでは。

答 産業建設課長

バーベキュー設備の補修と駐車場の白線引きは来年度に予算化したい。草刈りについても管理人と協議して実施したい。

答 町長

案内板の必要性は認識しており、十分検討したい。

苦境に立つ香酸柑橘

消費拡大、販売促進を

(産業建設課長)

山野忠男議員



は。

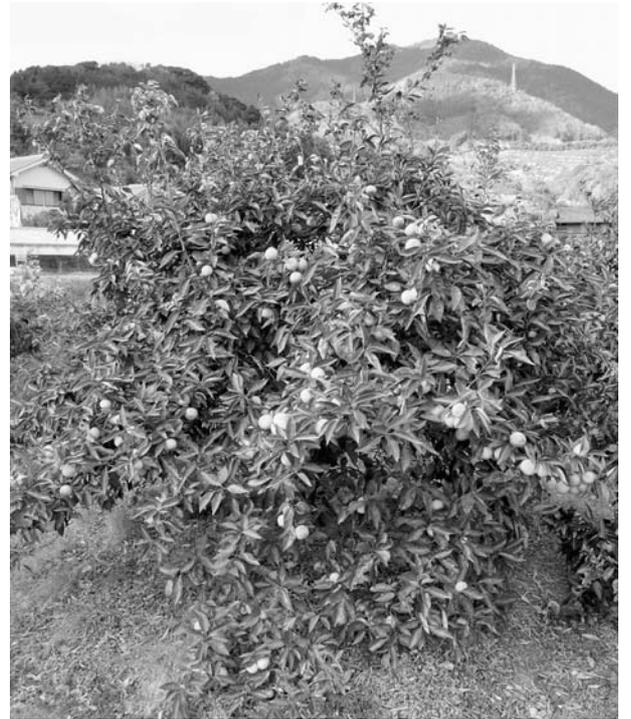
答 産業建設課長

香酸柑橘は加工用原料の在庫が多く深刻な問題となっている。JA、業者、農家が一体となった消費拡大、販売促進対策が必要である。改植には国・町単補助事業があり二十二年度では国費で八件、町単補助で百六件の申請があった。園地再生事業は二十一年度から実施しており、現在二、四ヘクタールが新たなみかん園に再生している

問

二十二年産スタチ、ゆこう、ゆずの加工用原料は最終的にJA、業者ともに引き取り手がなく、農家は生産意欲を失っている。今後の対応策と改植する場合の補助制度は。

また、「小松島・勝浦地区果樹産地構造改革計画」にあるように、産地活性化を図るための園地再生事業



収穫されず放置されたスタチ

定住自立圏構想で

医療、福祉、農業は

問

今、全国で定住自立圏構想が進んでいる。勝浦町も十月には人口が六千人を切り、今後、人口減少抑制策が課題となるが、徳島市を中心とした構想の中で医療、福祉、農業をどう進めて行くのか。

答 病院事務局長

地域医療の向上を図るため、共同研修、症例検討会、講演会の開催、患者の相互

紹介、医療情報の提供、高度医療機器の検査依頼・受託などを検討している。

答 福祉課長

保育児童が病気などで集団保育が困難な場合に預かってくれる事業を徳島市などで実施しているため、構想のなかで協議している。

答 産業建設課長

農産物のアンテナショップなどを徳島市内に置き、各市町村の特産品を販売する計画を検討している。

増え続ける鳥獣害

問

鳥獣被害が激増しているが、駆除にかかわる猟師は高齢化などで減少している。その現状と他町村との連携した対策は。

答 産業建設課長

前年と比較してシカ、イノシシで二倍、タヌキ、ハクビシンは五倍と急激に増えている。猟友会に加入している猟師は四十人余りと減っている。

他町村と県の連携で十月に一斉捕獲を実施した。

その他の質問

○町道改良について



中山・横瀬簡易水道

大丈夫か!? 水源地

水質検査を実施（産業建設課長）

森本 守議員



問

中山・横瀬簡易水道の水源地上流に、建物を解体した時に出るごみ混じりの土が二十年ほど前から大量に持ち込まれている。県や町はどのような理由で許可しているのか。

また、婆羅尾峠では夏場に大量のラン栽培が行われているが、農薬などが水源地に流れ込む危険があるが、



水源地上流に積まれた土砂

どう対処するのか。

答 住民課長

平成二十年に県

の係官と現地調査を行ったが、土砂であり産業廃棄物ではないと認識している。

答 産業建設課長

水道水の水質検査は毎月九項目、三カ月ごとに十二項目実施している。

また、水源の原水については、年一回三十八項目について検査を行っており、異常はない。

答 町長

県の見解は土砂とのこと

であるが、地元住民の不安解消のためにも十分調査したい。

独居世帯の

安心・安全対策は

問

現在、六十五歳以上の独居世帯は二百三十一戸あり、まだまだ増えると予想される。

万が一の時に助けを求めることができず命を落としたり、後遺症で不自由になる心配がある。以前に安否確認のために緊急通報装置が導入されたが、現在の設置は八台である。もっと増やすべきでないか。

また、光ファイバーや携帯電話の短縮機能を利用しているかどうか。

答 福祉課長

緊急通報装置は

以前、約三十台設置されていたが、IP電話との接続ができないため八台となっている。

増設についてはもう少し検討したい。

答 総務課長

光ファイバーや携帯電話の活用については、先進地の状況などを調査して福祉課と連携したい。

その他の質問

- 柑橘類作物について
- 「道の駅」について

学習支援活動の 取り組みを

実態を把握して判断したい

(町長)

井出美智子議員



世帯の中学三年生を対象に教育訪問を行い、県内の大学生から学習支援ボランティアを募り、公共施設の会議室を借りて学習教室を実施している。

問 所得格差が教育の問題になっている。各地で様々な学習支援活動が行われており、勝浦でもぜひ取り組んで欲しいという要望がある。

また、各地で取り組まれている実例は。

答 教育長

埼玉県では生活保護

農業支援の 取り組みを

省力化を支援したい

(産業建設課長)

問

TPPは農業だけでなく金融、保険、公共事業の入札、医師、看

護師あるいは介護士などの労働市場の開放まで含まれている。賃金もアジア諸国の低賃金との競争にさらされ大幅に引き下げられる危険がある。町長の認識は。また、貯蔵みかんの収穫時の省力化のため、きめ細かな補助制度を設けるべきでは。

答 町長

TPPについて大きな関心を持っている。農業等への影響について把握できていないが、今後、調査し要望活動もして行きたい。

答 産業建設課長

町単補助事業を見直し、省力化を支援したい。

ヒブ、肺炎球菌

ワクチン接種

一日も早い取り組みを

早く実施できるよう

努力する(福祉課長)

問

三歳くらいまでの子どもにとって命にかかわる一番怖い病気が「細菌性

答 福祉課長

当初は新年度からの実施を考えていたが、医療機関の広域化により早い対応が可能となり、補正予算に向けた準備を進めた。

子宮頸がんワクチン

助成対象拡大を

段階的に広げたい(町長)

問

子宮頸がんワクチン接種の助成対象は中学三年生に限定されている。対象枠をもっと広げるべきでは。

答 町長

子育て支援の一つとして段階的に広げて行きたい。



機械化による貯蔵作業の省力化

県道・阿南勝浦線

沼江バイパス 進ちよく状況について

二十三年度の完了をめざす

(産業建設課長)

森 健 議員



問 県は沼江バイパスに補正予算を計上しているが、その内容と現在の状況は。

答 産業建設課長

平成二十二年度には当初予算以後、二回の補正予算が付いている。今回七千万円の補正予算が付き、この予算による工事が完了する

と予定の路床まで切り取れることになり、進ちよく率は七十五%になる。今後、二十三年度として、側溝、安全施設、舗装など



23年完成をめざす沼江バイパス

の予算確保を要望し、全てが完了するよう取り組みたい。

町境付近の 県道拡幅について

問 県道阿南・勝浦線、町境付近の拡幅は、

バイパスと同時完成が望ましいと思うが、現在の状況は。

答 産業建設課長

買収土地の周辺に公図と現況に差異があり、九月以降進展はしていない。この処理が終われば用地交渉に入れると考えている。

町道 家台・中山線 生活道としての 機能回復を

問 九月に議会で町内各地の交通量調査を

実施したとき、家台・中山線は朝夕六時から九時の間

に約六百台近い車の行き来があった。

車同士が対向する時に、歩行者は石垣にへばりつくようにして車をやり過ごしている。生活道としての機能回復のためにも、用地の協力が得られるところから待避所的な考えも取り入れ、改良を進めるべきだ。

答 産業建設課長

以前から課題になっていた路線である。沼江バイパスが完成すれば少しは緩和されると思うが、このままではと言う思いは十分にある。用地等の条件が整えば、狭あいな部分からの改良の検討は必要であると認識している。



へばりつくように車が走る家台中山線

人口減少問題

民間活用の 住宅整備計画を

一つの手段であり

検討して行きたい（町長）

大西 一司 議員



答 総務税務課長

定住のための若者向け住宅建設は重要な課題だ。色々な取り組みを検討して行きたい。

答 町長

若者向けの住宅整備推進は、具体的にになると色々な問題や配慮も必要で慎重になってくる。民間業者の活用は一つの手段であり、十分検討して行きたい。

問

勝浦町の人口は十月で六千人を切っており、このままでは減少スピードが加速する。対策として道路改良事業と合わせて、若者の定住促進のための住宅整備が必要だ。

しかし、町営住宅の建設には色々な問題もあり時間もかかる。民間業者に委託し、住環境の整備を進めては。

生活排水処理

合併浄化槽設置の 推進を

今後も普及に取り組み

（住民課長）

問

汚水処理率は全国平均八十五・七％、県は平均四十七・六％、本町は三十六・五％と低い。清らかな勝浦川ときれない町と自然を守って行くためにも、合併浄化槽設置を強く推進すべきだ。

また、設置時の排水についてのトラブルも発生している。合併浄化槽の排水はきれいな水との認識の啓発も進めるべきだ。

答 住民課長

合併浄化槽設置は国・県・町の補助事業として実行しており、排水問題等についても今後、広報・ホームページ等で周知し、設置推進に取り組んで行く。

鶴林寺線

待避所を含めた 改良工事の実施を

補助金を利用した

計画を立てる

（産業建設課長）

問

鶴林寺は「道の駅」完成や国の史跡指定等による参拝者の増加が予想される。

また、生名谷川には砂防ダムも計画されており工事作業車も多くなる。これまでの部分改良でなく、待避所を含めた大きな改良工事

答 産業建設課長

十一月に実施した大型バスの実証実験で、明らかに改良が必要な狭い部分については、国の補助金を利用した実施計画を立てたい。

待避所については地元の協力等条件が整えば計画的に改良したい。

■その他の質問

- 国保特別会計の今後の取り組みについて
- 農業振興とTPP問題について



改良が急がれる狭い部分

町内産業の活性化 住宅リフォームに助成を

耐震補強の助成制度の

活用で対応（町長）

松田貴志議員



事の予算を十分活用することにより、建築業者の仕事も増えて行くのではないかと

「勝浦みかん」ブランド化への取り組みは

問 公共事業の恩恵を受けにくい建築業者や職人の仕事を増やすため、住宅リフォームに対し工事費の一部を助成してはどうか。

答 町長 二十年度からの緊急経済対策事業により、多くの公共事業を発注した。また、耐震診断、補強工

問 基幹作物である「みかん」のブランド化は大変重要な課題だ。現在の取り組み状況は。また、関係者間の意識共有が重要だが、町長としてどのようにリーダーシップを発揮するのか。

答 産業建設課長 現在、一定の品質を持つ

た「みかん」について、段ボール箱の統一ができないか、関係者間で協議を進めている。

答 町長 勝浦町の基幹作物である「みかん」を支援して行くのは当然であり、今後もブランド化に向け努力して行く。

人形文化交流館の整備を

町民に広く合意形成を図ることが重要
(産業建設課長)

問 人形文化交流館の整備については、以前から「道の駅周辺整備と一体的に」と答弁してきた。情報館の名称が「ひな里かつうら」に決定がされたことから、交流館の整備についても所有するNPO法人と協議し、方向性を示す時期にきているのでは。

答 副町長 人形文化交流館の排

水対策や段差の解消などの対応はしているが、要望のある屋根や外壁の修繕等については所有者が実施すべきと考える。

答 町長 施設の改修等については、町民に広くコンセンサスを

図ることが重要で、議論をして慎重に検討する必要がある。

ある。

■その他の質問

- 強い農業づくりへの取り組みは
- 国の補正予算への対応
- 戸別所得補償制度への対応



老朽化がめだつ人形文化交流館

正木ダム覚書

果たされぬ約束

県に強く働きかける（町長）

西浜勝己 議員



答 産業建設課長

今年の七月に県土木事務所
の担当者として町長と現地を
視察し協議を重ねている。

答 副町長

勝浦町に
来て初めて
二十八項目の覚書について
知った。未了部分につい
ては、今後とも県に申し入
れをしたい。

答 町長

二十八項目
は約束ごとで
あり非常に重いものだ。今
なお未了の部分について
は県に強く働きかけて行く。
特に県道整備は急がれる。

問

正木ダム建設に当
たり県は勝浦町、上
勝町とダム建設の条件とし
て二十八項目を実施するこ
とで覚書を交わしている。
しかし、ダム完成から三
十三年が過ぎたが、十二項
目はまだ未了だ。どんな
協議をしてきたのか。

新年度予算額は

今年度より増額に（町長）

問

新年度予算編成に
ついて各課の要望は。
また、一括交付金の対応は。

答 総務課長

大変厳しい財政状況であ
るが、中学校改築の大事業
を控えており予算総額は本
年度より増額となる。

答 町長

新年度予算
は住民生活に

直結したものを優先し、安
全・安心なまちづくりに向
け予算編成をして行きたい。
二十二年度予算三十一億一
千万円より増額になる見込
みだ。

一括交付金の対応として
は、政策の立案能力が試さ
れるので、人材育成、研修・
教育も必要で、情報収集
に努めたい。

高齢者の足を守れ

関係者と協議する（町長）

問

社会福祉法人「勝
寿会」と勝浦病院利
用者で、交通手段を持たな
い高齢者がデイサービスの
バスの利用ができなくなっ
た。関係機関との協議が必
要ではないか。

また、対象者は何人くら
いか。

答 福祉課長

「勝寿会」
では、県

の監査でデイサービスのバ
スの車での病院受診はダメ
との指摘を受けた。対象者
は百人くらいである。

答 町長

今までデイ
サービスとのバ
スで送迎して、勝浦病院を
利用していたので利便性が
あった。今後、バスが利用
できなくなると高齢者にと
っては非常に不便になっ
てくる。関係機関と十分協議
したい。

その他の質問

○ヨシガヤ対策について



果たされていない建設時の約束



K-Friends

ケーフレズ

会員数460人
(1月1日現在)



セルフコンディショニング

この教室は、ストレッチとエアロビクスを組み合わせたもので、骨格のゆがみを整え筋肉を伸ばすことで血行がよくなり腰痛・ひざ痛の方に最適です。リズムに合わせた有酸素運動で、心も体もぽかぽか！

インストラクター

渡川恵子先生

(トクシマフィットネス
ラボ所属インストラクター・
健康運動実践指導者)

健康で明るい生活を送るため、マイペースで元気な体づくり運動を行っています。心も体もすっきりと、みなさんの生き生きとした、笑顔が素敵なクラスです。



インタビュー

この教室に参加したきっかけ、楽しいことなど！

- 日ごろの運動不足解消のため参加しました。
(E・Oさん)
- 毎回、楽しみにしています。友達もたくさんできました。
(M・Aさん)
- 先生にパワーをいただき、年齢を忘れ仲間と頑張っています。
(T・Mさん)
- 健康に大変よく、毎回楽しく参加しています。
(Y・Sさん)

練習

毎週火曜日 午前10時30分～11時30分
場所：勝浦町住民福祉センター

問い合わせ・申し込み先

K-Friends事務所 (町民体育館、改善センター)
電話・FAX 0885-42-3671
E-mail kfriends@27.fan-site.net
<http://kfriends.fan-site.net/index.html>



国は来年度予算から、ひも付き補助金を廃止し、一括交付金として自治体に交付予定だ。使い道は自治体の裁量に任せられ、町の計画・立案能力が試される。もちろん議員の政策提言は欠かせない。町の発展は全町民のやる気にかかっている。

(編集委員長)

編集後記



人生のスピードは年齢と正比例すると言っ。二十歳の時は時速二十キロ、六十歳になると一年が六十キロのスピードで過ぎ去る。

今年は議会の改選期だが、あつと言間に四年間が過ぎた様に感じる。議員として町のために何ができたか振り返る時でもある。

十二月議会では人口減少問題が取り上げられた。昨年十月で六千人を割り、毎年八十人くらい減り続けている。少子高齢化・人口減少問題は町の存亡にかかると大きな課題だ。